

## 地域移行促進部会活動報告（知的グループ）

### ◆平成29年度第三回地域移行促進部会（知的グループ）の報告

- 開催日…平成30年3月23日(金)10時00分～12時00分
- テーマ…知的障害者における地域移行に関する課題の整理
- 討議概要

#### 1 すだちの里における地域移行の現状と課題について

- ・開所当初から地域移行できない利用者が10名近くおり、その理由について分析し報告を受けた。
- ①過去にはとても強い行動障害があった。すだちの里の環境があつて落ち着いているが、移行に時間がかかっている。夜勤者がいないユニットを経験の上、移行予定。
- ②環境変化に弱く、職員が交代する毎にパニックを起こしていた。最近力がつき、自分でパニックを制御できるようになってきた。日中先から移行し、順調に推移している。重度対応のGHなら移行できる状態であり、整った環境であれば、移行可能。
- ③支援者との相性が限定的。声が大きい人でないと落ち着かない。優しく接する人が苦手ですと選ぶ。情緒の波があり、振れ幅を小さくすることが課題。
- ④高齢で、常時車いす。都内外のGHで高齢・身体障害対応の所を探している。受入が可能なGHさえあれば移行可能。
- ⑤他者への干渉が激しい。他者へしつこく関わる為、トラブルとなる。すだちの里のような逃げ場があればよいが、GHのような密な環境では過ごせない。環境要因が大事。
- GHへの移行が難しければ、自宅に戻るという選択肢を取らざるを得ないが、自宅に戻れない環境の人も多い。GHの情報の共有と発信を効率的にできれば、移行も早まると思う。

#### 【意見交換の概要】

- ・住まいと日中活動を分けて、段階的に移行するのは、良いポイント。日中活動から先に移行する方、住まいから移行する方、同時に移行する方もおり、何がベストかは、ケース次第。
- ・行動障害が激しかった（窓ガラスを割ってしまう等）人もいる。すだちの里では、根気強く支援を行えば、本人は成長し、行動は変容できるということを実績として蓄積しており、丁寧な支援が必要。「やり直し」が効くのであれば、チャレンジできるので、そのような場が今後必要。
- ・日中は複数体制であり対応できるが、夜間は一人体制で、個別性が高い人への対応をどう乗り越えるかが日々直面する大きな課題。
- ・医療的な配慮が必要な人が増えた関係で、現在は夜間3名体制としているが、これを続けることは困難。医療面では、往診を利用し、24時間対応してもらえる体制はとっている。看護師の配置はできない。職員も非常勤だと集まらないので、常勤で募集しており、人件費は厳しい状態が続いている。

## 2 地域移行先として有「グループホーム」について

- GHへの移行に体験があればよい。夜の様子を見てみないと本人の様子わからない。GHの体験入居を積極的に利用できるるとよい。1月間ではわからないことがある。
  - 単純にGHの数があればということではない。大事なものは、「職員の質の確保」「失敗しても元に戻れる保証」「経験を積める体験」。
  - GHでは、介護保険のヘルパーをGHに導入したことがある。役割分担ができ、良かった。
  - GHに訪問リハビリ、訪問診療、訪問マッサージを入れた。訪問診療入れてよかったのは、祝祭休日や夜間の発熱や病気に対応してくれること。直接指示を仰げる。訪問リハビリは、外部の専門家をすることで、職員の支援の質が向上した。バックアップ施設の援助も大きい。
  - 外部サービスの話が多くあがった。外部サービスの導入のマニュアルがあれば、GHでの受け入れの幅も広がるかもしれない。グループホーム地域ネットワーク事業の活用も。
  - GHで、利用者の状況（例えば高齢化）が変わった時の対応はどうしているか？
- 歩行困難になった方がおり、歩行器利用になり、GHでの支援が困難になり高齢サービスに移行。  
→乳がん手術後ドレーン管理が必要だが、世話人で行うのは難しいとなった。

## 3 人材確保について

- 職員が辞めてしまう、新卒でGHの世話人を希望する人はいない。法人採用で配置されるパターンはある。「働きたくない職場」となってしまう現状がある。
- 「大変だけれど、やりがいがある仕事」という発信が必要。「応援があるから、世話人をやってみませんか」というアピールなどで、世話人を辞めさせない取組が必要。
- 世話人は話したいこと抱えている。なかなか時間がとりにくい現状有る。ネットワーク事業では研修やケース会議等は、業務時間外に参加してもらっている。専門家に話を聞いてもらえる機会はとてもよい。
- らいむ松庵では、すだちの里のバックアップを受けられる、バックアップ機関が近くにあるのは大きい。フォローが緊急時に即時的に入る。

## 4 やり直しの場について

- すだちの里…一度GHへ地域移行し、GHの世話人と相性が合わず退所。住まいがないので、すだちの里の短期入所を利用。その後、別のGHへ移行した方がいた。
- GHとして受入が困難になる場合もある。一旦入った人が、出ざるを得ない状況となったときの次の受入先探しは課題。
- 受入が困難な人については、現場がどれくらい頑張れるかということにも関わってくる。職員

同士の連携をいかにとって、全体で受入を検討していく。

## 5 計画相談との連携状況について

- ・ケアマネージャーと比べて、動きが制限されており、動きが取りづらそうな印象がある。
- ・(計画相談は) 行政と利用者の橋渡しをしてくれており、もっと色々と教えてほしい。すだちの里にタイムリーに情報が行き届かない時あるので。
- ・移動支援も含めて、全体のコーディネートをしてくれて助かっていた。
- ・事業所の特色はあるが、事業者によって動き方があまりにも違うので戸惑うことがある。持っている情報もマチマチ。
- ・通所施設も、相談支援事業所による動き方の差を感じる。通所施設側ももっと発信し、何か緊急事態や状態の変化等があったときにすぐに動けるように関係づくりは重要。
- ・相談支援事業所が持っている GH の情報は限られている。区からの GH の情報提供をもっといただきたい。福祉事務所と協力した情報共有・区との連携が不可欠。

## ◆今後について

- ・今回の議論では、すだちの里での地域移行の課題から、多くの地域の課題が見えた。課題を整理し、今年度の取組に生かしていく。